

# 『注文の多い料理店』新刊案内

宮沢賢治

青空文庫



イーハトヴは一つの地名である。しいて、その地点を求むるならば、それは、大小クラウ  
 スたちの耕していた、野原や、少女アリスがたどった鏡の国と同じ世界の中、テパーンタ  
 ール砂漠のはるかな北東、イヴン王国の遠い東と考えられる。  
 じつにこれは著者の心象中に、このような状景をもつて実在したドリームランドと  
 しての日本岩手県である。

そこでは、あらゆることが可能である。人は一瞬にして氷雲の上を飛躍し大循  
 環の風を従えて北に旅することもあれば、赤い花杯の下を行く蟻と語ることでもでき  
 る。

罪や、かなしみでさえここでは聖くきれいにかがやいている。

深い榊の一部である。それは少年少女期の終りごろから、アドレッセンス中葉に對す  
 る一つの文学としての形式をとっている。

この見地からその特色を数えるならば次の諸点に歸する。

- 一 これは正しいものの種子を有し、その美しい発芽を待つものである。しかもけつし  
 て既成の疲れた宗教や、道德の残滓を、色あせた仮面によつて純真な心

意いの所有しやうしや者あたちむに欺あきむ与あえんとするものではない。

二 これらは新しい、よりよい世界せかいの構成こうせい材料ざいりやうを提てい供きようしようとはする。けれどそれもそれは全く、作者ま者に未知みちな絶たえざる驚きやう異いに値あたする世界せかい自身じしんの発は展てんであつて、けつして畸形きけいに捏こねあげられた煤すす色いろのユートピアではない。

三 これらはけつして偽いつわりでも仮空せつとうでも窃盗せつとうでもない。

多少たしやうの再度さいどの内省ないせいと分析ぶんせきとはあつても、たしかにこのとおりその時心しんしやう象しやうの中に現あらわれたものである。ゆえにそれは、どんなに馬鹿ばかげていても、難解なんかいでも必ずかなら心の深部しんぶにおいて万人ばんにんの共通きやうつうである。卑怯ひきやうな成人せいじんたちに畢ひつき竟きやう不可解かかいなだけである。

四 これは田園でんえんの新鮮しんせんな産物さんぶつである。われらは田園でんえんの風と光の中からつややかな果実かじつや、青い蔬菜そさいといつしよにこれらの心象しんしやうスケッチを世間せけんに提供ていきするものである。注文ちゆうもんの多い料理店りやうりてんはその十二卷じふにかんのシリーズの中の第一冊だいいっさつでまずその古風こふうな童話どうわとしての形式けいしきと地方色ちほうしきをもつて類集るいしゆうしたものであつて次の九編くへんからなる。

目次と……その説明

(中略、ここに「注文ちゆうもんの多い料理店りやうりてん」の中扉なかとびらのカットを挿入そうにゆうしてある)

## 1 どんぐりと山猫

山猫やまねこと書いたおかしな葉書はがきが来たので、こどもが山の風の中へ出かけて行くはなし。必ず比較かならひかくをされなければならぬいまの学童がくどうたちの内奥ないおうからの反響はんきやうです。

## 2 狼森と笹森、盗森

人と森との原始げんしてき的な交渉こうしやうで、自然しぜんの順違じゆんい二面にめんが農民あたまに与あたえた永ながい間の印いんし象やうです。森が子供こどもらや農具のうぐをかくすたびに、みんなは「探さがしに行くぞお」と叫さけび、森は「来こお」と答こたえました。

## 3 烏の北斗七星

戦たたかうものの内ない的てき感情かんじやうです。

## 4 注文の多い料理店

二人の青年しんしりやう紳士しんしが猫ねこに出みちて路まよを迷まよい、「注ちゆう文もんの多い料理店りやうりてん」にはいり、その途方とほうもない経営けいえい者しやからかえつて注文けいされていたはなし。糧かてに乏とほしい村むらのこどもららが、都会文明とかいぶんめいと放恣ほうしな階級かいきゆうとに對たいするやむにやまれない反感はんかんです。

## 5 水仙月の四日

赤い毛布ケットを被かつぎ、「カリメラ」の銅鍋どうなべや青い焰ほのおを考えながら雪の高原を歩いてい  
たこどもと、「雪婆ゆきばンゴ」や雪狼ゆきオイノ、雪童子ゆきわらすとのものがたり。

## 6 山男の四月

四月のかれ草の中にねころんだ山男の夢ゆめです。鳥からすの北斗七星ほくとしちせいといっしょに、一つ  
の小さなこころの種子しゆしを有もちます。

## 7 かしわばやしの夜

桃色ももいろの大きな月はだんだん小さく青じろくなり、かしわはみんなざわざわ言い、  
画描えかきは自分の靴くつの中に鉛筆えんぴつを削けずつて変へんなメタルの歌をうたう、たのしい「夏の  
踊りおどの第三夜だい」です。

## 8 月夜のでんしんばしら

うろこぐもと鉛色なまりいろの月光、九月のイーハトヴの鉄道線路てつどうせんろの内想ないそうです。

## 9 鹿踊りのはじまり

まだ割わかれない巨おおきな愛あいの感かん情じょうです。すすきの花の向むかい火や、きらめく赤褐せつかつの  
樹立こだちのなかに、鹿しかが無心むしんに遊あそんでいます。ひとは自分と鹿との区別くべつを忘わすれ、いっし  
よに踊おどろうとさえします。





# 青空文庫情報

底本：「注文の多い料理店」角川文庫、角川書店

1996（平成8）年6月25日改訂新版発行

1997（平成9）年5月25日改訂4版発行

※「（中略、く）」は編集者による注記です。創作的表現にはあたらないと判断し、底本通りとしました。

※底本の「地方名」を「地方色」に改めるにあたっては「宮沢賢治全集8」（ちくま文庫、1986）、「注文の多い料理店」（新潮文庫、1990）を参照しました。

※傍点は原文（初版本刊行時の広告ちらし）で赤刷りされた文字を表します。

入力：土屋隆

校正：noriko saito

2005年2月21日作成

2005年5月21日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 『注文の多い料理店』新刊案内

宮沢賢治

2020年 7月17日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>